



〒892-0841
鹿児島市照国町13-42
カトリック鹿児島教区
電話099 (226) 5100
振込口座 02030-2-8359
編集発行 教区広報部
1部60円年間千共1100円



洗礼の恵みに気づき、それを生きよう(6)

2024年 年間目標

鹿児島教区司教 中 野 裕 明

教区の皆さま、お元気で
しょうか。

6月は「イエスの聖心の
月」です。イエスの心臓が
茨の冠で拘束されながらも
愛の炎を燃え上がらせてい
るご絵を思い浮かべてくだ
さい。このような熱い愛
を、洗礼の恵みを私たちは
受けているのです。

さて、私たち日本の司教
団は4月8日(13日まで)ロ
ーマ教皇庁を定期訪問して
きました。

この訪問は、アド・リミ
ナ・アポストロームと呼ば
れるもので、直訳すると
「使徒聖ペトロと聖パウロ
の墓参」となります。内容
的には、ローマ教皇庁と各
国の司教団との神学的、霊
的、実務的な交わりを深め
ることを目的としており、
教会法に5年に一度の開催
と定められています。今回
はコロナ禍の影響で3年延
びたようです。

この訪問の準備として、
各教区は自教区についての
過去5年間の報告書を提出
します。

訪問中のスケジュールで
すが、最初の4日間で13の
部署を訪問しました。13の
部署は以下の通りです。

①聖職者省、②文化教育
省、③奉献・使徒的生活会

省 ④諸宗教対話省、⑤いの
ち・信徒・家庭省、⑥総合人
間開発省、⑦教理省、⑧典礼
秘跡省、⑨福音宣教省・初期
宣教部門、⑩福音宣教省・世
界宣教部門、⑪広報省、⑫列
聖省、⑬國務省。

各省の訪問の形式は、お
互いの自己紹介の後、日本
側から事前に提出していた
報告並びに提案書に基づい
て、意見交換がなされると
いう形でした。このような
会合を通して、日本の事情
をローマ教皇庁側に報告す
るとともに、教皇庁側の考
え方を聞く良い機会となり
ました。

この訪問の頂点はやは
り、教皇フランシスコとの
謁見でした。

その日は、午前7時か
ら、聖ペトロ大聖堂の地下
にある聖ペトロの墓の前で
ミサを捧げた後、教皇謁見
に臨みました。2時間ほど
待機して後の謁見でした。

私たちの前に4組ぐらいの
謁見があったのかもしれない
せん。「お忙しい教皇様」
といった感じです。

私の知る限り、以前の教
皇様だと、先ず日本の司教
団への教皇からのメッセー
ジが読み上げられ、それに
ついて質疑応答がなされた
ようですが、今回は司教団

と中央協の事務局長だけが
車座になって、自由に会話
を交わすというものでし
た。これまでのような日本
の司教団に対するメッセー
ジはありませんでした。教
皇は杖を頼りに自力で、着
座すると、原稿なしで、
「皆さん、自由に質問して
ください。私に対する批判
でもいいですよ」と言われ
ました。すると一気に空気
が和み、率直で、教皇の本
音を聞きたそうな質問が出
ました。「これがまさに教
皇が推進しているシノダリ
ティー、つまり、霊におけ
る会話」と感じました。

最終日は、聖パウロ大聖
堂で締めくくりにミサを捧
げました。
紀元65年頃、暴君のネロ
皇帝の時に殉教した聖パウ
ロの遺体が納められている
大聖堂です。ローマは聖ペ
トロだけではなく聖パウロ
の殉教地でもあります。宣
教において、聖パウロの働
きは甚大です。

ところで、前日の教皇と
の会合の中で教皇は、聖パ
ウロにも言及しました。そ
れは、「エルサレムの使徒
会議」(使徒言行録15・1
35)の事でした。

すなわち聖霊降臨後、使
徒たちの宣教活動が活発化す
る中で一つの問題が生じまし
た。つまり、「フアリサイ派
から信者になった人が数立
つて、異邦人にも割礼を受
けさせて、モーセの律法を守
るように命じるべきだ」と言
った(使徒言行録15・5)
のです。この意見に対して、
エルサレムの使徒や長老たち
と、異邦人に対して福音宣教
をしていたパウロとバルナバ

との間に激しい対立と論争が
なされたのが、このエルサレ
ムの使徒会議の内容でした。
現在でも、全世界の教会
で、いろんな問題について激
しい論争が繰り広げられてい
ます。勿論、ローマ教皇庁で
も例外ではありません。そん
な中、教皇は涼しい顔で、言
い放ちます。「初代教会でも
一緒だったでしょう」と。聖
ペトロと聖パウロの住むロー
マは、そんな魅力のある街で
あるし、「喜びと希望は、決
して失われてはいないと感じ
る都市である」と言えます。

1708年にシドッティ
神父が上陸したセンバガウ
ラと呼ばれる人江まで直線
距離で約1kmのところ展
望タワーは位置します。
海を望むデッキに立つと
上陸地方向に夕陽が落ちる
フォトジェニック(写真映
えするような)な風景に出
会える絶景ポイントが地元
の方ばかりではなく多くの
観光客を魅了しています。
屋久島を訪れる機会のある
方はこの展望台から316
年前にひとりこの島に身を
置いたシドッティ神父に思
いを馳せてみては如何でし
ょうか?

歴史に埋もれてしまった
かのような宣教師の痕跡は
私たちの身近なところにあ
るのです。これを機に皆さ
んにシドッティ神父様に興
味をもって頂けることを期
待しています。

尚、当該法人はシドッ
ティ神父を語り継ぐために
「屋久島シドッティ記念
館」設立を計画していま
す。この計画の実現のため
にも皆さんの温かいご協
力、ご支援を求めています。
まずはこの地に足をお
運びになつて頂きますよう
宜しくお願い申し上げます。
(種子島・屋久島教
会主任司祭・鈴木康由)

集會祭儀司會者養成講座

櫻井神父、嘉松神父の公開講座でスタート

司祭不在時の主日に集會
祭儀を司會する信徒を養成
するための「集會祭儀司會
者養成講座」が4月28日
(日)のザビエル教会での
講座から始まった。

この日の講師は日本カト
リック典礼委員会の櫻井尚
明神父(福岡教区・手取教
会主任司祭)。神父は「集
會祭儀はミサの簡略版では

ない」とした上で、「洗礼
を受けた者たちが一つの群
れになるためのミサ。その
ためにミサで何が行われて
いるのかを知り、神のこ
とばを聞いて愛の実践へと向
かう精神を学んで欲しい」
と話した。

櫻井神父は、翌29日
(月)には、奄美市の聖心
教会に隣接する名瀬カトリ



櫻井神父による奄美での講座



嘉松神父による鹿児島での講座

座には鹿児島では約40人、
奄美では60人に上る信者が

受講した。
また5月12日(日)と19
日(日)には、日本カトリ
ック典礼委員で長崎大司教
区の嘉松宏樹神父(法人事
務所長)による講座が、そ
れぞれザビエル教会、名瀬
カトリックセンターであ
り、両会場ともに35人が出
席した。受講者はミサの構
造を学ぶことで、集會祭儀
とミサの違いを確認し、そ
の上で信者が主日にミサが
なくとも一堂に会し祈る大
切さを学習した。

この日があるから頑張れる

復活の主日に奄美大島地区で合同ミサ

主の復活を祝うミサを中心とした奄美大島における全島大会が、旧大島工業高校体育館でフランシスコ・ザビエル中野裕明司教様司式により、3月31日（日）、午前11時から開催されました。コロナ禍から解放され、晴天にも恵まれ、総勢300人を超える信徒が集う4年ぶりの待ちに待った大会でした。

入祭の聖歌「いざよろこべ」が歌われる中を子供の手導により、ミサが厳かに始まりました。

司教様は説教で、人間の罪と神の救いのご計画、そして主イエス復活の意義についてお話しされました。

「いのちの木」ではなく「知識の木」を選んでしまったアダムとエバ。悪魔の誘惑は、人間の自己保身という心をたくみに利用して、原罪を犯させてしまったのです。カインとアベルの代では、自己保身の心は「嫉妬心」となります。神がアベルの方を愛している

と勝手に思い込んでしまったカインは、弟アベルを殺してしまつたのです。この「嫉妬心」は人類を分裂という更なる悲劇に至らせるものです。

神の目的から大きく逸れてしまつた人間社会の中に主イエスは遣わされたのでした。しかし、人々は神の御心を理解しようとし、主イエスを殺してしまつたのです。弟子たちですらなかなか理解できず、十字架にされるのでした。しかし、主イエスは十字架の死から3日後復活されたのでした。

弟子たちにとっては驚天動地、恐れおののく弟子たちを前に、復活された主イエスは「あなたがたに平和があるように」と言われたのでした。やがて、弟子たちの心は喜びへと変化します。

司教様はこの心の様を「ワンダフル」と表現されました。更に、緻密な計算による采配で野球をリードした野村克也監督の名言を引用されます。それは人生における三つの坂のたとえ

です。上り坂、下り坂、まさかの坂です。三つ目のまさかの坂には予測不可能なことが突然出現するという意味で神の領域とされます。弟子たちの「まさかの坂」はイエスの死と復活だったということです。

主の復活に典礼を通して与つた私たちも弟子たちのような心で歩まなければなりません。かといって、それは並大抵のことではありません。1年の主日のミサを通じて主の復活の意義を深めていくことが求められます。

共同祈願では①「世界シノドスのため」②「世界の平和と病者のため」③「大熊教会」④「司教と教区の一致のため」⑤「瀨留教会」⑥「召命のため」⑦「古仁屋教会」とそれぞれの意向を心を合わせて祈りました。

閉祭では「よろこびうたえアレルヤ」が元気に歌われ、体育館が喜びの歌声で満たされました。12時から昼食会。体育

館に割り振られた各教会スベースで用意してきた食事をいただき、あちこちから談笑したり、旧交を温めあう皆様の和やかな風景が見受けられました。

13時30分からゲームを楽しむレクリエーション。種目は、宝釣り、ナリ運び、輪投げ、ビン倒し等です。子供たちから高齢者まで皆で楽しめるもので、司教様やシスター方も参加され、なかなかの盛り上がりでした。

イグナチオの霊操⑫

紫原教会主任司祭 貴島 丈弥

第一週(3)自分の本当の姿を知る

わたしが第一週で体験したことを少し書きたいと思っています。

フライピンから帰つてくるときに、荷物を送ることがうまくできずに、向こうで待つていたほとんどをなぐりつけてしまいました。その中に霊操のときに色んな体験を書き留めたノートも含まれていたのが残念で

た。最後に教会対抗ゲームの講評と表彰式（瀨留教会が優勝）がありました。そして15時、閉会式。内野神父様の派遣の祝福で、すべての日程は終了いたしました。

紙面をお借りして、ここの感想を一言だけ述べさせていただきます。今回の大会開催日は、一般社会では年度末にあたります。次の日は新年度の初め、古い自分を脱ぎ捨て、復活の喜びを胸に学校、職場、家庭や



す。それでも、霊操の中で体験というのは色あせずに、霊魂に刻まれているようなので、今でも大切な黙想や霊操は鮮明に思い起こすことができます。

第一週です。第一週でまず思い出せるものが、自分自身を彫刻家に見立てて自分自身の像を創作し、そこへイエスさまが入ってきてそれを見て何と云うか聞いてみるという黙想です。一回目でわたしは、立派

な勇ましい気高いライオンの像を創作しました。そこへイエスさまが入ってきて、「見違えたね」と言ってくれました。それを聞いて、わたしは自分自身を誇らしく思いました。そのことを指導シスターに話してみると、「『見違えたね』と言われたのね」と返してきて、「もう一度、同じ黙想をするよう」に言われました。

二度目に、わたしは泥だらけの汚れた立つこともできない小さな犬の像を作りました。そこへイエスさまが入ってきたのですが、何と云ったのかは分かりませんでした。「貧しさをわすれるな」とかだったと思います。それをシスターに話すと、「どつちもあなたの姿ではないですよね」と言われました。

そのときは何を言われていたのか分かりませんでした。それから、さらに第一週の罪の黙想を進めていくうちに、それまで自分が目を背けていた数々の罪やそれら罪の重さが明確に自分の前に迫ってきました。これほどの罪を犯し続けてきた自分に、自分の本当の罪深い姿に愕然となり、失



④300人を超える信徒が集ったミサ

⑤ミサ後はゲームで親睦を深める

+KABAYAN SEKSIYON+

Ang Paghalik sa Altar

Ang paghalik bilang tanda ng pagpipitagan sa altar ay ginagawa n amula pa noong ikaapat na siglo.

Ito ay pagkilos na nagpapahayag ng pagbibigay ng halaga sa "hapag ng Panginoon", ang hapag kung saan ang Eukaristiya ay ipinagdiriwang at kun saan tayo ay inaanyayahang makibahagi o makisalo sa Katawan at Dugo ng Panginoon.

Ito ay simbolikong pagbati, na isinasagawa nang may pananampalataya at paggalang sa simula ng pagdiriwang.

Sa paglipas ng mga taon, ang sumusunod na kahulugan ay ibinigay dito: "Sa altar ay nakikita ang tanda ni Kristo mismo, na ihinalintulad ni Pablo sa "bato" (1 Cor 10:4- at ang bato ay si Kristo). Kung gayon, *ang paghalik ay pagbati kay Kristo.*

Isang napakagandang galaw nakagisnang kaugalian sa iba't ibang simbahan, subalit hindi lahat ng mga Parokya ay ginagawa ang galaw na ito ng pagdating sa altar ay hahalik o nagbibigay pagbati sa Panginoon Hesukristo.

Ang ibang mga obispo o pari kung mag-aalay ng Banal na Misa, pagdating sa altar ay yumuyuko lang(ganun din isang pagpapakita rin ng pagbati kay Kristo).

Subalit ang paghalik sa altar ay napakagandang asal at galaw ng mga obispo o ng mga kaparian man na ginagawa itong bilang pagbati at higit sa lahat paggalang at pagkilala sa presensiya ng Diyos sa Banal na Altar na kung saan inialay ang pagdiriwang ng Eukaristiya o Banal na Piging.

Sa ganitong paraang naituturo rin sa mga nagsisimba o mga mananampalataya na dumadalo sa misa ang dapat din nilang gawin nab ago ang simula ng misa sila rin ay inihanda para sa pagbati o paggalang sa Panginoon Hesukristo na totoong nasa presensiya ng Banal na Misa.

Pagnanakita ng mga nagsisimba, nabibigyan sila ng kalakasan at katatagan na sa pagsimba nila nararanasan ang presensiya ng buhay na Diyos. Kaya kailangan talaga ang patuloy na pagtuturo sa mga mananampalataya tungkol sa buhay na gawain sa liturhiya at nadadagan ang kanilang kaalaman sa buhay pananampalataya.

Katesismo Tungkol sa Liturhiya (Fr.Dino Orolfo)

▼シスター・テオドラ
レデンプトール宣教師
女会の総長テオドラ宣教師が姉妹共同体への公式訪問のため鹿児島を訪れ、4月30日午前、教区本部に中野司教を表敬訪問した。



女会の総長テオドラ宣教師が姉妹共同体への公式訪問のため鹿児島を訪れ、4月30日午前、教区本部に中野司教を表敬訪問した。

「短・信」

「日本におけるシノドスのつどい」を体験して

谷山教会信徒 岩崎正幸

「日本におけるシノドスのつどい」（3月7～8日）には中野裕明司教をはじめ内野洋平神父（司祭団代表）、シスター宇田美智枝（修道者代表）、そして岩崎正幸氏（信徒代表）が教区の代表として参加した。以下に参加者による報告・分かち合いの文章を掲載する。

「日本のシノドスのつどい」に参加させていただきましたので、そのときの体験を分かち合いたいと思います。

はじめにおことわりいたしますが、2019年に行われた鹿児島教区のシノドスにはほとんど関わる事ができませんでしたので、教区の代表として出席したわけではありません。ごく一般の信徒もシノドス的な歩を分かち合える、という実験台として参加させていただいた、と考えています。

以下、司教様方、神父様方の敬称は略させていただきます。

1日目は、「シノダリテイ（シノドス的）」ということテーマに分かち合い

先月のコラムで「イエス様の生涯についての諸伝承やQ資料を含めた様々な資料を単に繋ぎ合わせただけでは福音書にはなりません。」と書きました。

福音書の中で描かれているイエス様の生涯を通じて様々な出来事は、それが書かれる以前に存在したQ資料と呼ばれる資料や民衆に残るイエス様に関する諸伝承に基づいていると考えられています。

Q資料の学問的名称は「言葉資料」と呼ばれるもの

にもかかわらず、コロナのため、実行できないまま、あるいはその後の集まりができないうまま、になってしまったことが多く印象をもっているからです。

をおこないました。

同じ班に中野司教、アベイア司教、アンドレア司教、司祭3人、修道者2人、そして信徒3人でした。中には教区のシノドスの信徒代表の方もいらつしやうて、しつかり原稿を準備されていたので、わたしは内心「どうしよう」と思っていました。

正直に、「わたしは決して教区シノドスの代表ではない」ということをお断りした上で、シノドスについてのイメージを述べました。

有意義で必要な集まりではあるが、継続性こそが大変なことではないかと。鹿児島教区のシノドスで様々なよい提言が出された

ですが、この資料には便宜上Q資料（Qはドイツ語の「Quelle」[資料]を意味する）とあだながつけられています。

《康由神父の聖書教室》73

福音書についての考察



この資料には福音書のよな物語や対話討論はあまり含まれていないと想像されています。

つまり、ほとんどイエス

リスト教入信」でした。同じ班に、菊地司教、白濱司教、酒井司教、司祭3人、修道者2人、そして信徒2人。

1巡目は、必然的に自分とカトリックとの出会い、という個人の話になりました。意外だったのは、成人洗礼の方が多かったということです。それぞれ洗礼にいたるまでの道はいろいろなのだなあと、みなさまの話を聞いて思ったのです。

そのようにいろいろな形でイエスに出会うことができ、そういう人たちが集まっている日本の教会は、それだけで実は非常に豊かなのではないかと。

この班の発表はわたしが係になっていました。前もって割り当てられていたので、逃げる事ができませんでした。緊張でした。

午後の発表に向け、昼休みに原稿をメールで送らなければいけませんでしたが、ゆっくりにお弁当を食べ、ほかの方々とおしゃべりする時間はとれませんでした。

原稿を送り、お弁当を口にできたのは、昼休み終了の10分前でした。あまり原

稿どおりに発表することはできず、自分の印象がどうしても入ってしまいました。それでも、たくさんの分かち合いのほんの一部しか発表できなかったと思います。なにせ発表の制限時間が2分でしたので。

しめくくりのミサが、カトリック会館隣の潮見教会でおこなわれました。

説教をされた小西神父の話が印象的でした。このようにシノドスの分かち合いを各地に広げていただきたい。本当にそのとおりだと思ったのですが、「そのためには各人にいろいろなゆとりが必要であるな」と思いました。

まずは、同じテーブルを囲むという時間を設けなければなりません。忙しいわたしたちには、同じテーブルを囲むことができるということだけでも大きな恵みです。自分の時間を提供するというのは、大きな犠牲を伴うのですから。それができれば、シノドス的なあゆみは確かに可能であるな、と思いました。

まずは同じテーブルにつきましよう、それがともにあゆむ第一歩だと改めて感じた2日間でした。

音書は信仰の目をもつて描かれたものです。このことを忘れてはなりません。つまり信仰こそが福音書を読み解く鍵となるのです。言い換えれば福音書に書かれている内容を知的に理解しようとしてもそれは自ずと限界に直面することになるということです。

福音書がイエス様の死後、数十年経ってから書かれた理由を考えると最初の信者の団体に於いては文書化されたものを信仰の拠り所として求めなかったと

会と催し 6月

- 2日（日）キリストの聖体
- ▼教区修道女連盟総会・教区本部・9時
- ▼教区経済問題評議会・教区本部・14時
- ▼松森孝郎神父命日（2017年）
- 3日（月）三教区司祭合同黙想会・大分・7日
- 4日（火）みことばを祈る集い・ザビエル教会・10時
- 7日（金）イエスの心
- 8日（土）聖書の分かち合い・教区本部・14時
- 9日（日）年間第10主日
- ▼カトリック教師の会（テーマ「霊における会話」）・教区本部・15時
- 11日（火）フリチエル神父命日（2016年）
- 13日（木）泉浩二神父霊名（聖アントニオ）
- ▼鄭法鍾神父霊名（聖アントニオ）
- 16日（日）年間第11主日
- ▼奄美の宣教司牧を考える会
- ▼レジオナリエ鹿児島・谷山教会・13時30分
- 18日（火）奄美司祭会
- 19日（水）中野アカデミー・教区本部・13時30分
- 22日（土）聖書の分かち合い・教区本部・14時
- 23日（日）年間第12主日
- ▼聖ペトロ使徒座への献金
- 教皇は毎年、世界各地を司牧訪問します。そして、人々の苦しみや悩みを聞き、優しい笑顔で力づけ、数々の援助を与えます。キリストの代理者、教会の最高牧者である教皇は、祈りと具体的な援助を通して全世界の人々にいつも寄り添っているのです。この教皇に心を合わせて、わたしたちも世界中の苦しんでいる人々のために祈りと献金をささげます。教皇のこうした活動のために充てられる聖ペトロ使徒座への献金は、8世紀ごろイギリスで始まった、大人も子どももいっばん小さな通貨の単位である1ペニーを毎年教皇に献金する運動がもとになって世界中に広まったものです。
- 24日（月）洗礼者聖ヨハネの誕生
- ▼小川靖忠神父霊名（洗礼者聖ヨハネ）
- 25日（火）コンベンツス・教区本部・10時
- 26日（水）中野アカデミー・教区本部・13時30分
- 29日（土）聖ペトロ 聖パウロ使徒
- ▼永山幸弘神父霊名（聖ペトロ）
- ▼桃蘭淳一郎助祭霊名（聖ペトロ）
- ▼小限憲士神父霊名（聖パウロ）
- ▼アン神父霊名（聖パウロ）
- ▼貴島丈弥神父霊名（聖パウロ）
- ▼小島芳武助祭霊名（聖パウロ）
- 30日（日）年間第13主日
- ▼司教日程 3～7日三教区合同黙想会（大分、16日奄美の宣教司牧を考える会、19日中野アカデミー、20日善き牧者会、22日白百合幼稚園、25日コンベンツス、26日中野アカデミー
- 祈りの意向
- 【祈祷の使徒会】
- 教皇 祖国から逃れる人々
- 日本の教会 病に苦しむ人たち

押川尚樹（引率者代表・聖心教会）

「巡礼、何処に行こうか？長崎だよ。」2016年、中学3年の6人の子供たちから始まったこの旅、今年で4回目になりました。私たちは「中学・高校生が部活や勉強などで教会から遠ざかる昨今の事情をどうにかできないものか」と周囲に声をかけ、月に1度食卓を囲んで、祈りや聖書の言葉を分かち合う集いを実施、その集大成として集う子供たちが場所を決める巡礼をしています。

前回までは、見送る側でしたが、今回子供たちと初めて巡礼に参加することができました。長崎大崎教会で、素敵な神父さま、信仰深い純白のベールを被る乙女たち、侍者をする少年たちと出会いました。教区を越えて繋がりのあう巡礼の旅でした。

旅は終わらず御復活を挟み長崎の大崎教会の皆さんが巡礼で南国奄美を訪問してくれました。奄美の子供たちと、長崎の子供たちが今、繋がりました。長崎巡礼から今回の奄美で長崎大崎の巡礼団を迎えた一連の時間は、私にとっても心にエネルギーがわき、まるで、エマオへの道を歩く旅人のような思いに駆られました。ともに時間を過ごしてきた子供たちの成長を感じながら、大きなお恵みを感じています。神様に感謝いたします。

福岡音重（高校3年・鹿児島在住）

私が長崎巡礼に行って感じたことは、長崎教会の人の対応がすごく温かいということ。豪華な食事を用意してくれたり、皆が心地よく眠れる部屋を用意し

てくれてとてもありがたかったです。おかげで私は長崎での巡礼が私の一生忘れられない思い出となりました。

また、私はミサで初めて朗読に挑戦させて頂きました。ミサにあずかる人たちの前で朗読するのは、とても緊張しましたがいい経験になりました。私はこの長

奄美大島の青少年が長崎巡礼

春休みを利用して充実した4泊5日

崎で得た経験や思い出を将来に活かしていきたいと思っています。長崎の皆さん、この度は私たちを温かく迎えて下さりありがとうございました。

最上太生（中学3年・聖心教会）

今回の巡礼は、初日は2度目の大崎教会でした。初めて会う子もいました。2、3日目は、佐々教会が一番印象的でした。コカコラの倉庫を改装して作った教会だということに驚きました。その後、島の教会を巡りました。伊王島の教会のライトアップが綺麗でした。黒島教会の説教壇がすばらしかった。4日目に初めて参加した叙階式は、たくさんの神父様がいて驚きました。

大崎の子供たちが奄美に来た時は楽しかった。一緒にバーベキューしたことです。その後、大崎の子供たちがダンスを披露してくれました。楽しい雰囲気でした。奄美パークでは展示物や八月踊りの体験するコーナーがありました。大崎の人たちも盛り上がりつつありました。

前里一成（高校3年・浦上教会）

4泊5日の長崎巡礼を通して感じたことは、キリスト教を通しての人の繋がります。

私は、昨年この巡礼に参加し、同じような体験をしました。初日は、昨年もお世話になった大崎教会に行きました。変わらず保護

界文化遺産である黒島天主堂に行きました。奄美大島の教会とは比べ物にならないくらいに内装も外装も綺麗で感動しました。3日目には伊王島の馬込教会へ行きました。こちらは、夜になると盛大に教会をライトアップして遠くからでも目立つとても綺麗な教会でした。4日目の最終日は、ま



長崎の中村大司教様と

ある西坂へ向かいました。そこでは父に「何故この洗礼名にしたのか」という説明を聞きました。自分よりも年下の男の子が自分の命を捧げてまで神を信じる姿にとっても感動しました。自分では絶対に無理だと思えます。

その後、聖母の騎士の本河内教会へ行きました。昨年も訪れて、コルベ神父の像が

生きた姿を学びました。海に行ったり、みんなでバーベキューをしたりと、とても充実した2泊3日だったのではないかと思います。大崎の子供たちはみんな良い子でとても感激です。またの機会があれば個人的にも行きたい教会です。

最上太生（大学院1年）

今回の長崎巡礼に参加させて頂き、ありがとうございました。

今回は、最後の1泊2日だけ参加させて頂きました。その中でも、本河内教会が印象に残りました。僕たちが中学3年生のときに訪れた教会で再びミサにあずかることができ、また次世代の教会仲間の成長を実感することができてとても嬉しかったです。奄美に帰った時にはまたミサにあずかろうと思うので、よろしく願います。



要理

イエス様が教えたくださった神様は「父と子と聖霊」という三位一体の神様です。このことを考える前にクイズを出します。

人間は一人、二人、鳥は一羽、二羽と数えますが、天使はどのような数えるでしょうか？

天使は人間より優れた存在です。ですからこの地上に存在する生き物と同じように数えられません。天使だから一天、二天と数えるでしょうか？。答えは一位、二位と数えます。ということは三位一体とは人間で言えば三人が一人であり、一

人でも三人ということです。

難しい言葉でいえば神という本性は一つでも三つの位格（人格）があるということです。これを三位一体の秘義（神秘）と言います。しかし人間にはこんなことを理解することはできません。そこで

三位一体について

で啓示：神様が人間に現わしてください。真理として受け入れるしかないのです。そもそも神秘を人間の理性で理解できたとしたらそれは神秘ではありません。

三位一体を考えると頭が混乱してしましますが、一つの理解を紹介しておきま

す。

父と子と聖霊はそれぞれ独立しているのですから、それぞれは三つが一つであることを意味しているわけではありません。また個別に述べられているのではなく、三つのことが意味されているのではなく、さらに個別に述べられていても神の一つの本性、即ち、三つが一つであることが意味されます。このように三つの位格（人格）は相互に関係し、一つの本性を現していると考えられます。古代から三位一体を説明するためにいろいろな譬えが用いられてきましたが、どれも射的を射たものではないかもしれません。やはり神秘を説明しようとするは無理があります。